

事業所名 グループホーム町屋

運 営 推 進 会 議 開 催 報 告 書

| | | |
|---|----|----------------|
| 開催日時 2025年 12月 16日（火） | | |
| 参 加 者 | | 議 題 |
| 利用者 | 0名 | ① 行事報告 |
| 利用者家族 | 0名 | ② 行事予定 |
| 地域住民の代表者 | 0名 | ③ 身体拘束適正化検討委員会 |
| 市職員 | 0名 | ④ 質疑応答 |
| 地域包括支援センター職員 | 1名 | ⑤ 次回開催日 |
| 事業所 | 3名 | |
| 会 議 録 | | |
| ①行事報告 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 11 月 13 日 夕食の寄せ鍋作りを行いました。野菜や豆腐、豚肉などの具材を包丁で切っていただき、鍋に入れる工程にご参加いただきました。煮立つ鍋から立ち上る湯気と香りに、「いい匂い」「早く食べたいね」といった笑顔も多く見られ、和やかな雰囲気の中で調理が進みました。また、この日の食事は寄せ鍋に加え、松茸ご飯も提供させていただきました。季節の香りを感じられる松茸ご飯を、「香りが良い」「久しぶりに食べて嬉しい」と皆様、召し上がられました。（1 号館） ・ 11 月中旬～下旬 定光寺公園へ紅葉狩りに出かけました。赤や黄色に色づいた木々が見頃を迎え、公園内で写真を撮り、色鮮やかな葉や、秋の景色をゆっくりと楽しませておりました。外の空気に触れることで気分転換にもなり、「きれいだね」「来年も見れるといいね」といった笑顔が多く見られ、和やかな時間となりました。（1・2 号館） | | |
| ② 行事予定 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 12 月 19 日 感染対策訓練（インフルエンザ発生時の感染対策訓練） ・ 12 月 24 日 クリスマス会（1 号館） ・ 12 月 25 日 クリスマス会（2 号館） ・ 1 月初旬 初詣（八王子神社を予定） ・ 1 月生まれ 誕生日会（1・2 号館） ・ 2 月生まれ 誕生日会（1 号館） ・ 2 月 節分 | | |

③身体拘束適正化検討委員会

検討内容：「エスケープのある方に対する身体拘束を行わないための介護」

- ・ エスケープ時に考えられる原因
「散歩したい」「買い物に行きたい」と外出をしたい時や、「家に帰りたい」との帰宅願望時、また認知症の症状の不穏時にエスケープが起こる可能性があります。
- ・ エスケープをさせないために起こり得ると考えられる身体拘束

玄関・窓が開けられないように鍵をかける。
居室から出てこられないように鍵をかける。
いすや車いすから立ち上がって動けないように紐または抑制帯を使用する。
ベッドから起き上がれないように紐で縛り付ける。または、ベッドから降りられないように 4 点柵を使用する。

- ・ 身体拘束を行うとどのような問題が起こると考えられるか

玄関・窓が開かないため、ガラスなどを物などで割ろうとしケガをする。
椅子・ベッドに紐などで縛ると、立ち上がりや起き上がり時に手足に縛った紐で皮膚を剥離することがある。
ベッドから降りられないようにすると、無理な体制で降りようとすることがあり、より大きな転落事故になる。
抑制帯などで立ち上がれず、同じ姿勢により同じ場所に圧力がかかるため、皮膚トラブル（褥瘡）の原因となる。
動けないため、やる気の低下や下肢筋力の低下につながり、今まで歩くことが出来た人が歩けなくなるなどの ADL 低下になる。
などの問題が考えられます。

- ・ エスケープのある方に対する身体拘束を行わないための介護

外に出たい人を無理に戻したりせずに散歩へ同行し気分転換を図る。
施設内を一緒に歩き、話を傾聴する。
玄関外のベンチや東屋での会話で気分転換を図る。
外出や散歩を日課に組み込む。
施設での買い物同行や家族との外出。

- ・ 何故、エスケープする方に身体拘束は不要と言えるのか

生命危険が低い。→著しい命の危険がなく、切迫性に該当しない。
代替策で対応可能。→代替策でエスケープを未然に防ぐことや軽減が出来る。

まとめ

今回のテーマは、実際に町屋でもエスケープされる利用者様が見えるのでこのテーマにしました。まず、身体拘束は最終手段であり原則禁止です。「エスケープの可能性はある」だけでは拘束して良い根拠にはなりません。まずは、必ずアセスメントを行い、何が原因なのか、また背景にはどんな思いがあるのかを考え、身体拘束を行わない代替策に取り組みケアすることが大切だと思います。万が一、身体拘束を検討する際は、

切迫性・非代替性・一時性の３要件を必ず確認する。身体拘束を実施する場合には、記録・家族説明・段階的に身体拘束を解除していくことが必須であり安易に身体拘束は行えません。

④質疑応答

やすらぎ地域包括支援センター

- 寄せ鍋のイベント行事で１号館は行っていましたが、２号館は行わなかったのですか？
→ ２号館に関しては時期をずらして行う予定です。
- エスケーブのある方への対応により、頻度は減りましたか？
→ 上記の対応を行い、上手くいく時や、いかない時がありました。まずは、表情の変化や普段と違う行動に気づくことで初期対応が出来たらと思います。次に、エスケーブがある方には、個別で時間を調整し所在確認票を作っています。所在の把握を意識づけして確認出来るように取り組んでいます。また、身体拘束は入居者の自由を奪い、恐怖心を与え、ADL や QOL の低下に繋がります。エスケーブがあると、鍵をかけるという安易な発想ではなく、エスケーブを軽減するために、段階を踏み「身体拘束を行わない介護」に取り組んでいます。
- スピーチロックは介護者が気を付けていないと出てしまいますね。
→ スピーチロックは無意識に発言してしまうこともあるため、日頃から研修や勉強会にて職員に周知しています。また、具体的な言い換えの仕方なども話し合う機会もあり、スピーチロックをしないように取り組んでいます。

⑤次回開催日：2025 年 2 月 24 日（火） 14：00～